



教職員らに送り出される森永教授(中央)=11日、奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学

森永・奈良佐保短大教授

被災者支援へ出発

「学生に経験伝えたい」

能登半島地震

奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)で11日、能登半島地震被災者の要介護者支援のため、

金沢市へ向かう同大生・活未来科の森永夕美教授の出発式が行われた。厚生労働省から避難所で

「防災福祉」という科目を担当していることもあり、教科書の文字だけではなく、現地での経験を学生に伝えたいという。石川県では1次避難所から2次避難所へスムーズに移れるよう1・5次避難所が開設され、大勢の高齢者が過ごしているという。森

の介護業務を担う介護福祉士などの派遣協力が、日本介護福祉士養成施設協会を通じて同大に依頼があり、専門知識と現場経験のある森永教授が志願した。同大で「防

永教授は金沢市の1・5次避難所「石川総合スポーツセンター」で支援にあたる。森永教授は「支援場所だけでなく高齢者が100人程いると聞いている。経験を生かし、大学や地域活動に貢献できるようにしっかりと取り組んでいきたい」と話した。派遣期間は計10日間。きょう13日から支援にあたる。1度、同大の卒業式に奈良に戻り、再び現地に赴く。